

第5回稲敷市学校及び幼稚園適正配置検討委員会会議録

日にち：2008年2月22日（金）
場 所：稲敷市新利根庁舎会議室
時 間：午後6時30分～
出席者：26名
欠席者：4名

1. 開会

事務局

こんばんは。皆様方には大変お忙しい中、又夜分お疲れのところご出席をいただきまして大変ご苦労様でございます。それでは、定刻過ぎましたので会議の方始めさせていただきたいと思います。それでは、開会にあたりまして、会長にご挨拶を頂戴いたします。

2. 会長あいさつ

会長

皆さんこんばんは。2ヶ月ぶりの会議という事で、夜分にもかかわらずご参集賜りまして、誠にご苦労様でございます。各セクションにおいてはそろそろ人事の交代等、或いは改正等があるように感じておりますけれども、皆さん方においては十分に留意されて、もう一押しこの会議、皆さんの貴重なご意見賜ります事を冒頭改めてお願いする次第であります。

昨今の学校を取り巻く環境、特に県では新たに単学級や複式学級等々において再考しなくてはならない、いづれにしても県の財政は非常に脆弱であります。故にそれが教育界に及ぼす程、財源の指針を示したという事でもあります。ご多分に漏れず河内町の方でも、私の勘違いだったらあれですけども、小学校1校論とかですね、或いは中学校を何が何でも統一しようというような事で適正配置検討委員会を立ち上げたというような話を聞いております。我が市でもできるならば、皆さんの建設的な意見を賜りながら、財政が逼迫しているというのは理由になりませんが、より良い学校環境づくり、子ども達の健全な育成の為にどういう形が良いのかという言葉を入れて、統廃合もやむなしかなと私は思っているのですけれども、とりあえず皆さんの報告にかかっている訳であります。その中で、統廃合の論点はある意味では学校教育課の問題ではなくて、稲敷市すべて行政が本来ならば率先して統廃合問題にかかわるのが、本来は筋のように私は思っております。行政の担当の皆さん来ておりますけれども、市長をはじめ三役部長をはじめ住民のインセンティブを直接とれるような指針を示していただけるならば、この会はそれなりの答申を出せるという風に思っておりますし、今の状態では、この会議の方向付けまでも要求されては、非常に私にとっては難解な答申であると同時に玉虫色の答申になってしまうというような感じがしておりますので、どうぞその点においても行政の皆さん方にはそういう方向付けを改めて咀嚼していただいて、この会の8月における答申に、行政と一体化した答申を模索して行きたいという風に思っておりますので、何卒皆様方には色んな時期でありますけれども、この内容にもありますが、できるならば後で事務局の方から話があるかと思っておりますけれども

も、8月の答申までにはどうぞ皆さん方には、このメンバーでこの会が推進して行くような形をとりたいという風に思っておりますので、何卒その点も皆様方にはご理解いただき活発な意見が出ます事を、或いはより良い方向付けが出来ます事をご期待申し上げて、一言ご挨拶にかえたいと思います。本日は誠にご苦勞様でした。

事務局

ありがとうございました。それでは続きまして教育長よりご挨拶を申し上げます。

3. 教育長あいさつ

教育長

こんばんは。今日はだいぶ暖かかったですけれども、天気予報によると明日からまた寒くなるという風な事で、三寒四温という言葉がありますけれども、どうぞ皆さん健康の方にはくれぐれもご注意いただきたいと思います。私もちょっと油断したものですから、風邪を引きまして鼻声で聞きづらいかと思いますが、皆さん方にはどうぞご注意いただきたいと思います。会長さんの方からありましたけれども、今日の資料の中にも、茨城新聞の12月6日付けの県の教育委員会が、年度内に小中校統合を促す指針を出すという風な事で報道されております。今月の27日に義務教育課の方でも、意見を聞きたいという風な事で、2人程稲敷市に訪問したいという事で連絡があったようでございます。皆様方の今までのご審議の経過等、或いはご意見を県の方にも伝えて行きたいとそんな風に考えております。今日はアンケート結果が中心かと思いますが、色々のご審議をいただきまして意義のある会にしていただければありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。それではここで協議事項に入る前に、今回教育部長がかわっております。紹介をさせていただきたいと思います。1月1日より中澤教育部長が就任をいたしております。引き続きよろしくお願いいたします。

それでは早速でございますが、会長に議長をお願いしまして、協議を進めて参りたいと思います。よろしくお願いいたします。

会長

皆さんに資料が配布されているかと思います。本来資料は今日じゃなくて、もう少し前にいただくと非常に協議の運営が進むかと思っておりますので、今日は「アンケート調査結果の概要について」という項目から始まるのです。皆さんいきなりアンケートの調査結果を云々という議論はできませんでしょうから、ここで10分間アンケートを皆さんに一読いただきまして、それからアンケート調査結果について御意見を賜りたいと思いますので、暫時休憩といたします。よろしくお願いいたします。

(休 憩)

4. 協議事項

(1) アンケート調査結果の概要について

会長

それでは再開いたします。早速協議事項に入ります。「(1) アンケート調査結果の概要について」を議題といたします。説明と総括をお願いします。

事務局

それでは、ご説明をさせていただきます。アンケート概要の説明の前に、今回開催通知を差し上げた際、協議の中に素案をお示しするというような開催の文書を出させていただきました。会長と教育長の方からお話がありましたように、県の方でも適正配置についての基準を示すという事が、茨城新聞に12月に載りまして、今月の27日に県の方から指導に来まして、ヒアリングが実施されるというような状況がございます。素案をお示しする前に県との整合性も必要であろうというような事で、今回改めて会議次第と言いますか、協議の方には素案の方はお示しを若干遅らせるような形をとらせていただきたいというような事で、今回はアンケートの概要と考察の方を若干説明させていただきます。ご議論の方をいただきたいという風に思っております。今回の資料中に縦長のA3判の資料の方お示しさせていただきました。県内学校の教育のランキングというものでございます。そちらにございますように、人口10万人あたりに換算した教育の施設数等々を、県内の市町村の順位を付けたものでございます。例えば小学校で言いますと、10万人に換算しますと、小学校の数が県内で稲敷市は7位と、7番目に多いというような数字になります。中学校の場合は、県内で22位というような数字でございます。幼稚園の場合はやはり22位と、保育所は逆に36番目と県内でも保育所の数は少ないというような数字がでております。こういった資料等々やはり参考にさせていただきながら、或いは県計画との整合性を保ちながら、今回稲敷市といたしまして答申の素案を策定したいという風に考えておりますのでご了解をいただきたいという風に思っております。

それでは、早速アンケートの調査結果の概要の方をご説明させていただきたいと思っております。アンケート調査の方をご覧いただきたいと思っております。今回のアンケートでございますが、委員の皆様方にご議論いただきまして、小学校・中学校の保護者の方全員、小中学校の教職員の先生方、市内の小学校3年生から6年生までのお子さんという形でアンケートの方を取らせていただいております。小学校の保護者のアンケートの調査結果でございますが、回答数が1,916人これは回答率にいたしますと、77.5%の回答率という事でございます。調査結果の概要でございますが、「望ましい学校規模、学級人数についてあなたの意見をお聞かせください。」という問いでございます。一番多いのが「1学年あたり2～3学級が良い。」というのが1,332人と、これは70%の方が2～3学級が好ましいというようなお答えをなされてございます。問5の方でございます。「小学校の児童数は、法令では、『1学級40人以下とする』こととなっておりますが、どの程度が望ましいと思われませんか。」というような問いでございますが、こちらにつきましては、「1学級当たり30人程度」が好ましいという回答が一番多いと、これも全体の60%の方が、30人程度が好ましいというような回答が得られているという事でございます。「児童・生徒にとって望ましい通学時間、通学方法についてあなたの意見をお聞かせください。」という問いでございますが、小学生の場合には、30分以内が望ましいという回答が一番多いという事と合わせまして、問7の方でございますが「小学生の通学方法として、どのような方法が望ましいと思われませんか。」という問いでございますが、これは「徒歩」が一番多いのと2番目に多いのが「スクールバス」という回答が多いという事でございます。次のページをご覧いただきたいと思っております。「通学区域制度の弾力的運用についてあなたの意見をお聞かせください。」というような問いでございます。問8で「現行の制度では、児童・生徒が就学する学校は、基本的に1校だけに指定されています。そこで、通学区域の弾力的運用について、稲敷市ではどのように実施すべきだとお考えですか。」というような問いでございます。これは、「現行通り、1校指定で良い。」という回答が一番

多かった訳でございます。2番目が、「現行の制度に工夫を加える程度が良い。」という回答、3番目が「稲敷市の実態に応じてできるだけ通学区域の弾力化をするのが良い。」という回答が多いという事でございますが、これはそれぞれ1から3までの回答が大体30%ずつというような数字でございます。一番の回答率で現行通りが良いという回答があるものの、実際には弾力化に向けてというような回答も比較的多かったというような事でございます。これにつきましては、おそらくマスメディアの方で学校選択の自由化とか、そういったものを先進地でも既にやっているという事を報道されている関係から、弾力化に向けても意識が高まっているというような事が考察としてされるわけでございます。おそらく、年毎にこの弾力化の回答が多くなるのではないかとというような考察をしているところでございます。次の「学校の適正配置についてあなたの意見をお聞かせください。」という問いでございます。問9では「児童・生徒数が大きく減少すると予測される学校は、今後どのようにする事が稲敷市としては望ましいとお考えですか。」というような問いでございます。これにつきましては、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、通学区域の弾力的運用を進めて、現行の学校配置を維持する。」という回答が一番多くて35%、2番目に多い回答が「標準規模を満たさなくなった学校から、順次、学校の適正配置を検討する。」というのが2番目に多くて25%という数字になっております。適正配置については適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、通学区域の見直しを含めて現行の学校配置を維持してもらいたいというような事が保護者の方の回答で一番多かったというような事でございます。続きまして、「あなたが理想とするこれからの稲敷市の学校についてお聞きします。」というような問いでございます。問10で「学校への人材配置について、優先して取り組むべきことを3つまで選んでください。」という複数回答でございますが、一番多いのが「生活指導力の高い教員の配置」と、2番目が「学習指導力の高い教員の配置」という事でございます。いずれも先生方の能力の高い方を配置して指導をいただきたいというのが保護者の回答率が多かったというような事でございます。それと、問12でございますが、「学校の特色ある教育として、優先して取り組むべきことを3つまで選んでください。」これも複数回答でございますが、これは一番回答が多かったものが、「社会性や道徳性を育てるこころの教育」が保護者として一番望んでいる事というような回答でございます。以上が小学生保護者アンケート結果概要でございます。

続きまして、中学生の保護者アンケートをご説明させていただきます。こちらは回答数が965人で、回収率が65.1%でございます。小学生保護者と同様の問いとなっておりますが、「望ましい学校規模、学級人数についてあなたの意見をお聞かせください。」という問いで、一番多い回答が中学校の場合には、「1学年あたり4～6学級が良い。」というのが回答として一番多かったと、全体の54%を占めております。それと問5でございますが、「中学校の生徒数は、法令では、『1学級40人以下とする』こととなっておりますが、どの程度が望ましいと思われませんか。」という問いでございますが、これにつきましては、「1学級当たり30人程度」が望ましいという回答が一番多かったという事でございます。それと、中学生の通学時間(問6)・通学方法(問7)でございますが、こちらの通学時間については「30分以内」、通学方法については、「自転車」或いは「徒歩」、「スクールバス」という回答が多かったというような所でございます。次のページでございますが、「通学区域制度の弾力的運用についてあなたの意見をお聞かせください。」という事で聞いてございます。一番回答が多かったのが、「現行の制度に工夫を加える程度が良い。」というのが30%と、2番目が「稲敷市の実態に応じてできるだけ通学区域の弾力化をするのが良い。」というのが約30%の方がこういった回答をされていると、小学生の保護者の方よりもむしろ通学区域の弾力化を図るべきだというのが中学生の保護者の方の方が若干多いのかなという風に感じてございます。それと「学校の適正配置についてあなたの意見をお聞かせください。」という設問をさせていただいております。問9で「児童・生徒数が大きく減少すると予測される学校は、今後どのようにすることが稲敷市としては望ましいとお考えですか。」と

う問いでございますが、一番多かったのが「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、通学区域の弾力的運用を進めて、現行の学校配置を維持する。」と、中学校でもやはり通学区域の見直しを図りながら、現行の学校配置は維持して欲しいという回答が一番多かったという事でございます。それと、やはり「あなたが理想とするこれからの稲敷市の学校についてお聞きします。」問10で「学校への人材配置について、優先して取り組むべきことを3つまで選んでください。」複数回答でございますが、これは小学生の保護者と同様に学習指導力・生活指導力の高い教員を配置していただきたいという回答が一番多いという事と、問12の「学校の特色ある教育として、優先して取り組むべきことを3つまで選んでください。」という点では、「社会性や道徳性を育てるこころの教育」を重点的に進めてもらいたいという回答が一番多かったという事でございます。

小学校・中学校保護者の方のアンケート調査結果を踏まえ、理想的なクラス数、人数については、今回のアンケート調査につきましては、おそらく保護者の方の意識が具体的な統廃合のイメージでは無く、自分のお子さんが現在実際に通っている学校をベースにどういう風にしたら良いのかというような意識であったのかなという風に思っております。ですから、適正配置とは直接な関係がなく、理想としては「小学校は2～3学級の30人クラス」というのが一番多いという事と、「中学校は4～6学級で30人クラス」という理想であるというのが保護者の皆様の大半がそういったお考えであるという風に考察をしております。それと、望ましい通学方法・通学時間でございますが、これは小中学校共に「30分以内が望ましい」と、これは現行の学校の通学時間とほぼ同じであると、つまり「現在と同じ程度が望ましい」というお答えがなされているという風に思っております。ただ、スクールバスの回答が多かったという事は、将来何らかの形で統廃合が行われた場合にはスクールバスが必要ですよというような答えがなされているんだろうという風に考察をしております。続きまして、通学区域の弾力的運用でございますが、これは先程ご説明をさせていただきましたが、できるだけ弾力化が良いという傾向が実態としては強まっているという風に考察をしております。これはマスメディアで取り上げられているというような状況が保護者の皆様の意識に加えられているという風に考察をしております。それと、学校の適正配置についてですが、約4割の方が弾力的運用を進めて現行の学校配置を維持するという選択をしております。こちらにつきましては、理想的なクラス数・人数が小学校の場合は2～3学級で30人クラスだという回答が一番多かったんですが、実際には現行の学校配置を維持するという回答が多いという事でございます。若干回答としてはバランスが崩れていると、ちょっと論理的に矛盾が生じていると、現行どおりで自分の学校は2～3学級欲しくてというようなお答えになっているのかなという風に考察をしております。それと理想とするこれからの学校についてですが、指導力の高い先生方を望むという回答が最も多く、これから先の説明は申し上げませんでした。施設面ではトイレが一番脆弱と言いますか劣悪と言いますか状況が悪いというような回答が多かったということでございます。教育内容につきましては、昨今言われております、社会性とか道徳性を高める教育を望むという回答が圧倒的に多かったというような調査結果がございます。

会長

それでは、3つのカテゴリーとなっておりますけれども、保護者の方々のアンケートについて皆さん方ご質問、ご意見のある方いらっしゃいましたらよろしくお願い申し上げます。

直接アンケートの結果にかかわらず、それにリンクするような話だったら何でもご意見結構ですのでどうぞ挙手をお願い申し上げます。

A委員

中学生保護者アンケートの問 10 の所で学習指導力・生活指導力の高い教員の配置。学習指導力しかり生活指導力しかりはたまたスポーツという部分で教師ですか、先生方におかれましては生徒的なものが専行されてちょっとクラブといった時にちょっと薄いのかなと、日本国全体的に各種スポーツといった時にちょっと弱いのかなと思いますけれど、自分達の時にクラブの選択といった時に、僕はこういうクラブ、私はこういうクラブ、ああこのクラブに入ろうという選択意思ですか、選択力があつたのですけども、子ども達に関してスポーツという部分で選択肢が無いのかなとちょっと寂しいのかなという気がしますけども、その中で学習+生活+スポーツ、中学校であるならばクラブですね、クラブの方で総合的にやったださるような教師を望むという風にはいるのですけども、はたまたそういった事になると、指導力といった時、その他のクラブという部分になりますから、先生方にちょっと無理が出てくるのかなという事ではありますが、自分達が考える中ではやっぱり学習・生活という中で合わせてスポーツの方もお願いできればなと、クラブの方もお願いできればなと、尚且つそういった事をしてくれる教師におかれましては、教師の今のお給料ですか、それにプラスアルファしても良いのかなという風に自分なりに考えたわけではありますが、総合的にお話しますと、学習・生活所謂生徒指導力+スポーツ中学校のクラブですか、そういったものも踏まえながらがんばってやってくれる教師を目指したいというような、目指すような学校をなんとか選択できないのかなと考えております。以上です。

会長

ご意見として賜っておきます。他にございますか。

無いようでしたら小中学校の教員アンケート結果について説明の方求めます。

事務局

それでは、ご説明の方をさせていただきます。小学校の教員の先生方のアンケート結果でございます。回答数が 204 人でございます。これは当然 100%の回答率でございます。問5で「あなたはクラスの児童・生徒数を何人くらいが適正とお考えですか。」という問いでございます。これは小学校の先生方では、「21人～25人」という回答をされた先生方が一番多くて全体の82%、8割強の方が21人～25人のクラス人数が良いというようなお答えをなされております。問6でございますが、「あなたは受け持っている学年のクラス数を何クラスくらいが適正とお考えですか。」という問いでございますが、こちら小学校の先生では、「2クラス」から「3クラス」が最も回答としては多いと全体の86%の先生方が2クラスから3クラスを受け持つのが適正というようなお考えを持っていらっしゃるという事でございます。問7-1でございますが、「あなたは、学校全体で何人くらいの児童・生徒がいた方が良いと思いますか。」という設問でございますが、これについては「201～400人(学年2クラス程度)」というお答えをされた先生方が一番多くなってございます。2クラス以上、最大で4クラス以上多いと良いという風にお答えをいただいた先生が単学級ではなくて2クラス以上が良いとお答えになった先生が全体の約8割という回答でございます。それと問8でございますが、「あなたは、『学校規模の状態』が教育目標の達成に影響する大きな教育条件だと思いますか。」というような設問でございますが、「非常に大きな条件だと思う」というお答えをされた先生が一番多くて95人という数字になっております。

続きまして中学校の先生方のアンケート調査結果でございますが、回答数が103人でほぼ100%の先生方から回答を得ています。問5でございますが、「あなたはクラスの児童・生徒数を何人くらいが適正とお考えですか。」という設問でございますが、「21人～25人」が11人、「26人～30人」が

27人と、「31人～35人」とお答えをいただいた先生が11人と、21人から35人位とお答えになった先生が全体の8割を超えている回答になっているという事でございます。問6でございますが、「あなたは受け持っている学年のクラス数を何クラスくらいが適正とお考えですか。」という設問でございますが、こちらにつきましても3クラス以上が適正というお答えをしていただきました先生が全体の85%という風になってございます。問8でございますが、「あなたは、『学校規模の状態』が教育目標の達成に影響する大きな教育条件だと思いますか。」というような設問でございます。これも大きな条件であるという風にお答えいただいた先生方が全体の約7割という風な回答が得られておるところでございます。

続きまして、アンケート調査実施前に色々ご議論いただいた児童アンケートの結果でございます。市内小学生の3年生～6年生という事で回答の方は1,672人と、ほぼ100%の回収率でございます。これは先生方に授業の合間をぬって回答してお願いをした関係上100%の数字という事になっております。質問1で「あなたは、学校が楽しいですか。」という問いに対しまして、「とても楽しい」、「まあまあ楽しい」とお答えになった数が全体からの比率で92%の方が楽しいというような回答をされていると、質問2では「あなたは、学校の勉強がわかりますか。」という問いに対しては「とてもよくわかる」、「まあまあわかる」を含めて92%でございます。質問3では「あなたは、もっと勉強したいと思いますか。」という問いに対しまして、「とても思う」、「まあまあ思う」という答えになった子どもさんは全体の73%という数字になっております。こちらの児童アンケートにつきましては、学校ごとに集計の方を出させていただいております。比較的大きいA小学校と、少ないB小学校のデータの比較をしてみました。質問1～3の「あなたは、学校が楽しいですか。」という質問に対しまして、A小学校の子どもさんは、楽しいとお答えになったのは82%、B小学校の場合は楽しいとお答えになった子どもさんは100%という数字でございます。質問2で「あなたは、学校の勉強がわかりますか。」という質問に対しまして、A小学校は分かるとお答えになったお子さんが90%と、B小学校の場合には100%の方が勉強が分かるというふうにお答えになっております。質問3で「あなたは、もっと勉強したいと思いますか。」という問いでございますが、A小学校の場合は71%と、B小学校の場合には93%の子どもさんがもっと勉強したいというような答えをされている。これは、全体的に言える事だと思いますが、比較的大きな規模の学校・小規模の学校の関係はなく、質問の関連性から、学校が楽しいというふうに答えたお子さんは、勉強が分かって、勉強もしたいと思うという風にお答えになっていると、次からの質問に対しましても、友達がいるのかいないのか、何人以上いるのか、相談できる先生がいるのかという質問に関してすべてに関連していくという風に考察しております。つまり、学校は楽しいという事は、勉強がよく分かって友達もいて先生とも親しくなっていると、先生と親しくて友達がいると学校が楽しくて勉強もっとしたいというような質問の関連性という事で、まだ細かい分析まではしてはいないんですが、そういった関連性が見受けられると、集計をしていく中でそういった考察をしている所でございます。子どもさんに対して質問8-1で「あなたは、同じ学年にクラスがいくつあったらいいと思いますか。」という質問をしております。全体で「2～3クラス」とお答えいただいた方が全体の52%と、A小学校の場合には、現状でも2クラス以上あるわけですが57%が2～3クラスが良いと、B小学校は複式学級がある学校でございますが、こちらの学校も2～3クラスあるのが好ましいと答えている子どもさんが全体の45%いらっしゃるという事でございまして、比較的大きな規模の学校・小規模の学校の若干の違いがあるものの、教育環境的には比較的大きな規模であっても小規模であってもそう大差は無いという事と、実際に子どもさんが望んでいるのは、小規模校であっても複数クラスが欲しいというようなお答えになっているという事を、非常に興味深く今回の集計結果としてみさせてさせていただいております。事務局の方でも昨年12月に実施しまして、ほぼ1ヶ月位で5千からの集計をしたわけございまして、細かなデータ分析までまだなされてございませ

ん。質問の関連性を含めて若干のお時間をいただいて集計の分析結果という形で今私が申し上げたようなこと、或いは委員さんからこういう関連性があるのではないかと、ここを考察しようというような事があれば、保護者アンケートも含めて、事務局の方で研究或いは作業の方を進めさせていただければという風に思っております。以上でございます。

会長

まさしくそのとおりであろうと思います。結局設問の内容とか設問に多少つけ加える所があるのかと、それはそれで皆さんにご意見をいただければと思います。

さて、皆さんには設問の内容とか或いはもう少しこういうところも具体的にしたほうが良いんじゃないかという部分で皆さんのご意見がありましたら、お伺いしたいと思います。いかがですか。

B委員

教員アンケートの部分なのですが、学校の生徒数何人位が良いのかという事で、小学校で21人~25人が82%、中学校で26人~30人が80%と、大半の先生方が26人~30人位が適正であろうと、考えているようですが、過去に遡りますと、私達は40人、50人というクラスで学校に通っていたと、今ですと教育内容も登校日数も少ないし、内容も少ないのかなと、中学校にいたっても5時間の日があるという事、内容がそれだけ少なくなってきているのかなという事が考えられますが、その中で人数もさらに少なくなって、行き届いた教育が行われているのでであろうと思います。そこです、今の子ども達は学力というのは、過去の今40代・50代の人と今まさに中学校に通っている子ども達の学力レベルというのはどのような状況になっているのかなと、国際的に言いますと下がっていると報道されていますけども、人数が少なくなって決め細やかな教育を受けて、さらには教育内容が少ないにもかかわらず、国際的には学力が落ちていると、優れた子どもが育ってはいないのではないのかなと、まあ一部はそういう人もいるのでしょうかけども、学力は下がっているのではないのかなと、思っているのが大半の保護者の意見だと思うのですが、きめ細やかな教育と学力の低下と矛盾する所があるように考えられるのですが、現状としてはいかがなものなのでしょうか。

会長

これ教育研究会でそういう質問してくれませんか。ここでは、こういう質問を答弁するとしたら、教育長しかないよね。これ事務局答弁する設問じゃないから、教育長どうですか。

教育長

細かいデータは無いのでちょっとあれですけど、前にもお話したかと思うのですが、学力の捉え方、ただ点数だけでそれを学力と言えばこれまた比較が違いますし、今学力と言いますのは、とにかく生きて働く力、そんな風な捉え方を現在しています。先程アンケートの中でも社会性とか出てきましたけれど、何か自分で社会に出た時に1人で生きて働けるように、それから多くの人と人間関係を上手く作れるように、そういう力を含めた大きな人間としての自分の生きていく力これを学力と捉えると、又違ってくるのですよね。ですから学力の捉え方で違ってくるという事なのです。確かにこの間の世界的なものという、点数とかそういうのでみると下がっているかもしれないのですが、比較をどうするか、学力の捉え方、どんな風に捉えるのかによって下がった、上がったという事になると思うのですが。

C委員

今教育長からありましたように学力の捉え方というもの大きくあるかとは思いますが、一応C小学校では学力の捉え方を3つに考えています。それは学んだ力(知識・技能)と学ぶ力と学ぶ意欲、というこの3つに考えて学力を捉えております。今までは、学んだ力の知識・技能的なもの、前回の学習指導要領が改定された時は、偏差値教育があまりに生き過ぎたという事で改定になったのだと思います。そういう事も含めて、学んだ力というのは過去の文化や技術等についてしっかりと身につける。言葉を変えれば、基礎基本をしっかりと身につけようと、それから学ぶ力というのは、新たな問題が見つかった時に自分で課題を発見して解決していくというような、そういう力。学校で授業の中で勉強した事を次に生かせる。例えば今日C小学校で5年生にやってもらったのですが、体育館の脇に29日に植樹祭をやるので広い空き地があるのですね。これはどれ位の面積になるのか予想させて、面積を出すのに、鍵の手の空き地だったので、どうやって測るのかと、メジャー100mあっても届かない。学校にあるものでどういうものを使えばいいのか。道路建設でくるくる転がすのがありますよね。あれを持ってきて計算して、私は予想で2千㎡って言ったのですが、1,906㎡というのを出してきたんですよ。一つの条件の中でいかに学んだものを使って解決していく力になるか。そういう事を学ぶ力という風にしています。それから一番基本になるのが学ぶ意欲ですから、さっきアンケートにもありましたように学校が楽しいとか、友達と一緒に学ぶ事がうれしいとか、そういう意欲の問題、これは家庭との連携という事で、本校では学べる基盤づくりという事で、「早寝・早起き・朝ご飯」から始まった家庭との連携というのを続けてやっております。先程出ましたが、「比較すると落ちているんじゃないのか」という部分で、それは学んだ力だけでみていくとそういう部分は出てきますけれども、他の視点も踏まえて学力をどう捉えて、子ども達をどういう人間に育てていくかあたりを学校としてしっかり持っていたいなと、そういう気持ちで指導しております。以上です。

会長

B委員。今のとは違う意見かな。それとも関連する事かな。

B委員

はい。今の関連なのですけれども、今年度つくばに並木中高一貫校が出来まして、新聞紙面でも話題になっていたと思うのですけれども、競争率7.何倍、D小学校からも何人か受験されていますが、その子どもさんの保護者に聞くと、新聞紙面に載ったけどどういう設問があったのかなと、今の小学校の教育の中で、どういう風に回答が出来たのかなと、ある保護者と3時間程議論しました。今、D小学校でやっている様子だと、なかなか設問に答えて合格点に行くのは非常に厳しいのではなかったのかなと、競争力というものも社会に出ていく中で必要だと思うのですよね。学ぶ力、それから理解力もあってしかるべきだと思うのですけれども、稲敷市の教育を受けて競争力というのはどの程度養われているのかな。今回の尺度をはかるのに、県下色々なところから並木を受けたのだと思うのですよね。その状況、教育委員会ではたぶん把握していると思うのですけれども、稲敷市からどれ位の受験者がいてどれくらいの合格者がいたのか。近隣の町村ではどうなのかな。美浦はどうか。阿見はどうか。という所の調査も必要なのではないのかな。合格している子どもはどのような環境にあったのかな。後は、稲敷で何人合格したのだから分からないのですけれども、合格した子どもはどのような教育・どのような感覚の子どもだったのかな。そういう事、モデルケースになるかと思うのですよね。先生方の中で当然議論になっていると思うのですけれども、あれがすべてではないと思いますけれども、一つのモデルとして、今年度行われた試験について小学校の先生、どういう風に考えられているのかちょっとお伺いしたいな。

会長

ちょっと問題がはずれてしまっているから、この設問に関しては別の所でやっていただきたい。学校関係とPTAと学力向上。設問の中に「学力向上とゆとりある教育をどう考えるか」という設問を設けたりして、今B委員が言っているように、「稲敷市の学校の能力は他の学校より能力があるのか」という設問を設けてみるとか、そういう展開の方向の設問を設けるのも一案かなという事であって、もっとつっこんだ設問を設けるのも一考あるのかなというような話だと思うのですよ。そこから展開するのが皆さんのご意見で、別な教研とかPTA等でその問題、或いはかかわる各委員会でこれ議論していくものですから、ここは十分に参酌しながら、次の設問の参考資料として事務局の方では一考願いたいという風に思うところであります。それで、設問の内容等々どういった学校のデータが出たと、だからどうなのだという話をしていかななくてはなりませんから、こういう矛盾した所ありますよ。アンケートの部分において、こっちはこっちとか、そういう部分においてその矛盾をとっばらうには設問の無限性とか具体性とかを加味しながら、設問を考えていけたらなという訳で。貴重なご意見でしたので、一つ参考にしてたたき台にして欲しいなという風に思います。

他にございませんか。設問に関して。

D委員

児童アンケートをちょっと見させていただいて、これは小学校ごとに出ていますから分かりやすくてすごく助かったのですが、さっき事務局で全体的に比較的大きな規模の学校も小規模校も大体2クラスから3クラスというクラス単位が一番妥当だと考えているとおっしゃっていましたが、ざっと見ているとえてして大体比較的大きな規模の学校は複数クラスがあった方がいいという回答が多くて、小規模校はどちらかというと単クラスが多かったような気がするのです。これはやっぱり子どもの考えですから、自分が世話になっている学校規模を考えて、どうしてもこういう答えになってしまうのではないのかなという風に私はこのアンケートを見て思ったのですが、それはそれで仕方がないのかなと思ったのですが、このアンケートの答えを見て一番気になるのは、「勉強や運動でライバルになる友達が何人いますか」という回答に「いない」と答えた子どもの数が多いという事が私はすごく気になったのですよね。ざっと学校ごとに見てみると、そんな事はないのかもしれませんが、どっちかというと比較的大きな規模学校の方が「いない」と答えた子どもの回答率が多いような気がして、私の頭の中ではどちらかという生徒数の多い学校の方はライバルが多くて当然なんじゃないのかなと思ったのですが、この回答を見てみると、ひょっとしてそうでもないのかなと、小さい学校の方がライバルと自分が感じるようなお友達が多かったりするのかなという風にちょっと感じて、僕達が中学生の時には学校のテストで、中間・期末もそうですし、教研テストというのがあったのですが、その順位が一番からだーっと名前が張り出されたりして、それがいいとは私も思いませんけど、そういう事があって勉強も一生懸命やったし、さっきA委員もおっしゃっていましたが、部活もとにかくものすごく一生懸命やった時期ですから、今とは比較はできないのかもしれませんが、このアンケートの結果で私が一番気になったのは、ライバルがいないという風に答える子どもがこれだけ居るという事が一番問題なんじゃないかなという風に感じました。これを解消するように学校規模もそうですし、先生方の配置もそうですし、そういう事を考えていくという事が、ひょっとしたら一番大切なことなんじゃないのかなと率直に感じました。以上です。

会長

参考資料とさせていただきます。

他にどなたかありますか。

Ｃ委員

これから分析を細くなされるかとは思いますが、できれば分析の観点として、一点は例えば小学校保護者・中学校保護者・小学校児童・小学校教員・中学校教員という項目で学校数についてはどうなのだと、児童生徒数についてはどうなのだと、一目でわかるような表になっていると参加していても、学級数については小学校の保護者も中学校の保護者も児童も教員も大体こうですよという風なデータになると非常に分かりやすいというのが一点と、それから各学校の生のデータは非常にいいのですけれども、当初の目的が規模と意識の比較というデータがあったと思うのですね。だとすると、人数ではなくて%じゃないと比較できないのですよね。そういった意味では分析をやらないとね。これからよろしくをお願いします。以上です。

会長

これ事務局承っているのですね。

他にございますか。

無いようでありますので、皆さんの御意見・ご感想を集約しながら分析結果、今から出るのでしょうけれども、相当な作業でありましょうけれどもですね、皆さんの納得いくような分析結果と、さらに加味するものは加味して宿題を与えておきますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。以上アンケートの結果についての協議を終了いたします。

(2) その他

会長

続いて「その他」という設問であります。事務局何か提言ありますか。

事務局

それではその他の方で、一点程ご提案がございます。それは、この検討委員会でございますが、諮問から答申まで約1年というようなスケジュール、当初にお話をいたしまして、それに向って現在進んでいる訳ですけれども、答申の時期が8月というような事でスケジュールの方示されております。皆様方には昨年の8月22日に委嘱を申しあげまして、それ以来本日で第5回目になります。慎重な議論又貴重なご意見をその都度都度賜っている所でございます。この検討委員会の規則によりまして、委員さんの構成が1号委員～11号委員まである訳なのですが、任期というような事で第4条にある訳なんです。1としまして「委員の任期は、要請にかかる報告が終了した時までとする。」と2に「前条第1号から第8号までの委員にあつては、その職を離れたときは、委員の職を失うものとする。」という事で、1号の市議会議長さんから8号の中学校区区長会代表者の委員の方々、ほぼ8割以上の方々当て職というような形でございますので、通常ですと年度切り替えで色々な役職が変わるような状況がございます。従いまして今まで慎重なご議論をいただいているにもかかわらず、4月以降皆様方委員さんがかわられるというような状況が想定される訳でございます。事務局執行部といたしましては、答申をいただきます8月まで皆様方に委員に留まっただきまして、引き続き貴重なご意見を賜りまして、答申をいただきたいという風な事で考えているわけでございます。この適正配置につきましては、市の教育の方向を形付ける重要な事案でございますので、是非ともそのような事で考えておりますので、皆様方のご意見頂戴いたしまして、もしご同意がいただければ規則の改正

等を行いまして、引き続き委員としてお願いをしたいと思っている所でございますので会長さんよろしくお願ひしたいと思ひます。ご意見の方賜れればと思ひます。

会長

冒頭でも私言ったのですが、完遂するにあたっては今まで皆さんの貴重な意見を集約しつつ、完遂するには皆さんの今までの議論それから皆さんの考えを反映されなければならないという風に私は個人的に思っているのですが、事務局の方からそういう要請、お願ひがありましたので、皆さんの方で異論がない方は、この職に留まっていたら8月の答申まで一つご協力方私の方からもお願ひしたいと思ひますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

変えてもよろしいかという事で、皆さんご意見ありますか。

会長

ご同意を得たものと考えますので、改正をスムーズにやっていただきたいという風に思ひます。

事務局

はい、分かりました。よろしくお願ひいたします。

会長

他に皆さんの方からご意見はございますか。

B委員

しゃべり続けてすいません。次回の予定なのですけれども、次回の議事の内容、当然資料が事前に送られてくると思ひますのですけれども、次回はこういった内容で考へているのかなという事をお聞かせいただければ。それで、今後統廃合は進んでいくと思ひますのですけれども、稲敷市としてはこういった方針である程度、どうしますか、どうしますかと聞かれても俺ら分かんないので、ある程度こういう方針でというのが、事前にこういった一案・二案というのがありましたけれども、こういう方向で、例えば100人に満たない学校は統廃合せざるをえないのではないかなとか、そういったある程度の方針というのは8月に答申出すという、出来ていると思ひますのですけれども、差し支えない範囲でお聞かせ願えないかなと。

E委員

只今の意見について、行政の考へ方を正すというのも非常に大切な事だと思ひます。しかしながら、行政の考へどうですかという事はこの委員会の存在意義を無くす事にも繋がりがねないのではないかなと。この委員会では諮問を受けている訳ですから行政の考へ方はどうなのかは別にして、この委員会独自の考へ方を出すのが妥当な考へではないかなと、そういう感じがします。

会長

総務部長。

総務部長

委員長のご指名でありますので、今E委員さんが言われたように仮にアンケートの結果を見せていただいて、例えば私今財政を担当しているのですが、私にどうだという意見を求められれば、これ

は数的なものでお答えするしかない訳です。例えば文科省では40人以下の学級数でそれに基づいて国庫の補助が付きますし、それに基づいて市債そういうものも、そういう風な基準でやりますので、執行部どうだと、私総務部の方なので、極論言ってしまうと、例えば稲敷市では小学校は5校ですと、ただそれをここで言ってしまうと、先程E委員さんが言われましたように、この委員会の存在意義がなくなってしまうので、今回の件についてのコメントは避けたいというのが正直な所でございます。教育の方で、もしあれば、それはそれで私は教育の方の意見は尊重して、それを又市長の方にお話したいと考えております。

会長

そういう意見で、B委員さんの意見も一理あるし、E委員さんの意見も一理あると思うのですよ。さっきも言ったけど本来これはどこがやるべきなのという事になると、これは教育委員会だけの問題なのかという話になれば、予算を付けたり、統廃合するのは行政の方だろうと話になればそうになってしまうよね。学校の統廃合とは行政の問題であって教育の問題ではないのだよね。中身は教育の問題だけど、予算付けはあくまでも行政だから。そこをよく参酌していかないと意見が分裂しちゃうというような歪が出ますから、とりあえず今教育委員会でやっていますので、答申は教育委員会に沿った中で答申したいと思っておりますので、皆さんの意見を聞きながらこれからの議論を進めていきたいと思っていますので何卒よろしくお願ひしたいと思ひます。

他にございますか。

B委員

議題の予定は。

会長

議題の予定について。事務局。

事務局

次回の協議事項の予定ですが、今回のアンケート調査結果の考察を踏まえた集計結果をご報告させていただければという風に思ひます。今回データの方にはごさいませんが、自由意見の方でかなりの方に意見を記入していただいておりますので、そちらの方の意見もまとめあげるといふような形で集計結果・考察といふ事で次回の協議の方は考えてござひます。それと今後8月までの進め方につきましても、委員会といたしましてはあくまでも教育的な見地・教育力の向上といふ観点から精査していかなければいけない事案といふ問題として捉えてござひますので、ある程度市民の意向、それから先程申しました設問との関連性とか詳細な分析を踏まえて市民意向と、或いは保護者だけではなくて、或いはもっと広範な意見の聴取が必要なのか、パブリックコメントが必要なのかといふような事も踏まえて、作業の方を進めさせていただければなといふ風に思ひております。ただ、いずれにしても8月までには答申を出すといふスケジュールで進めさせていただきたいとは考えてござひます。

会長

B委員それでいいですか。

それ以外に何か。

F 委員

8月答申という事でゴールが決まっているんですね。今の事務局の方から説明があったんですけど。どうも毎回、委員会での話し合いの成果というものを考えてみた時に、着実にゴールに向かって進んでいるという感覚がどうしても持てないんですよ。おそらくそういう時期で考えると、もう答申の素案の文書が目に入っているという位の段階でなければまずいような感じがむしろするのですよ。そういう風に考えていくと今日このアンケート結果、ここまでまとめていただいた方大変だっただろうとは思いますが、これについての集計をした上での考察の概略のご説明をやっていましたけれども、早くこれを踏まえてだからどうするのかという、そちらの方の検討作業を入れていかないとおそらくゴールには間に合わないのではないかなという感じがすごくあります。答申をするには本当に検討をすべき課題というのはたくさんあると思います。ですから早く課題に具体的にいついてそれぞれの意見を出し合いながら、今日はこれについて徹底した議論をしよう、次回はこうしようやっつけていかないと8月の答申は実際には無理なんじゃないかなという感じがします。ですから次回の検討委員会では、何を議論するのかというのを予め周知させていただいて、一人一人がそれに対する自分の考えを持って臨むという風にして行かないと時間ばかりがかかってしまうような気がします。よろしくお願いします。

会長

まさしくおっしゃるとおりで、アンケートの調査そのものがすべてではないからね。この委員会のステータスという事がありますから、皆さんの意見を十分に参酌しながら、それとアンケート調査を踏まえて、もっとつっこんだ議論は確かにあるとは思いますが、次回の議題の中に一步踏み込んだ議論が展開出来るように、ある程度素案作りの方、最も原本は出来ているんでありましようけれども、さらに精査しながら、皆さんの意見を集約しながら、この委員会の意見を集約しながらアンケート調査を参考に、次回から進めていきますのでよろしくお願ひしたいという風に思っております。

他にご意見ありませんか。

無い様であります。長時間に渡り慎重審議ありがとうございました。気をつけてお帰りください。大変ご苦労様でした。

5 閉 会